

## 企業経営と新製品開発

### 企業の使命と目的

研究員 坂巻 資敏

#### 企業経営に必要なこと

●新規事業を興そうとする人が、ビジネス経験を積み、事業ドメインを決め、事業推進するドライビングフォースを手に入れ、重要顧客との人脈もできた。

しかし、これだけで企業の経営はできない。

#### 企業の目的を明確にする

●企業活動は社長一人では出来ないので社員を雇いチームとして仕事を進めることになり、社長のリーダーシップと社員とのチームワークがうまく取れないと、企業は倒産してしまう。

●人が集まり、共に働くとき一番大切なことは、チームが目指す共通の目的である。この目的が適切でないと、チームメンバーがいくら頑張ってもチームのアウトプットは良くなる。目的は明確でもチームメンバーが自分勝手にばらばらの行動を取れば、やはり良い結果は生まれない。

#### 目的を社員に配分する

●組織で活動するとき、リーダーは組織の目的を決定する責任があり、この目的をチームメンバーに納得させて分担させる事が求められる。従って企業の目的を決め、社員にこれを納得させ、目的を配分するのは社長の最重要の仕事である。社長が決める目的は、社員にとどまらず企業活動に協力して下さる人々、消費者と社会一般の人々から共感されるような目的を決めることが大事である。

●企業目的の雛形として、

「我社は、地球市民の幸福の増大に寄与する製品、システムとサービスを適正価格で提供し、利潤をあげ、国家への納税義務を果たすと共に、利潤を社員の拡大再生産と幸福の増大に活用する」。

●ソニーの創始者井深大が東京通信工業を創業した時に決定した設立の目的の一つが

一、真面目なる技術者の機能を、最高度に発揮せしむべき自由闊達にして愉快なる理想の工場の建設

●経営方針は、社員が目的を達成するときの制約条件となる。経営方針以外は、社員の自由裁量で達成手段を選べる。

一、不当なる儲け主義を廃し、あくまで内容の充実、実質的な活動に重点を置き、いたずらに規模の大を追わず

#### アダム・スミスの国富論

●洋の東西を問わず、昔から金儲けは卑しい行為とみなされ、商人が一番低い身分に甘んじてき

た。この卑しい行為を神の教えに合致する尊い行為に変えたのがアダム・スミスの国富論で、彼は資本家が金儲けを許されるのは3つの条件を満たす経営を行う場合に限定されると説いた。

第一の条件：子孫の繁栄に寄与する富（生活便益品）の提供

第二の条件：正社員雇用の維持拡大

第三の条件：国家への納税

●また、国家は税金を労働者の雇用拡大と社会インフラの向上に使い、貧者救済のばらまきに使ってはいけないと厳しく説いている。